

「かかわる」

■エピソード

4歳のさやかちゃんは、父親のはるおさんと、つどいの広場に遊びに来ました。ここにはよく来るので、スタッフとも顔なじみです。

スタッフ：「さやかちゃん、おはよう。さあ、今日は何して遊ぼうかな？」

先に来ていた3歳のすぐるくんは、一人で電車遊びをしています。

さやか：「ブロックがいい！」

そう言うと、さやかちゃんは、すぐさまブロックを箱から取り出し始めました。スタッフも手伝って、ブロックはだんだんと大きな建物のように積みあがっていきました。

スタッフ：「わあ、高くなってきたね！」



それに気づいたすぐるくんは、少しずつブロックの方に近づいていきました。スタッフの近くまで来ましたが、ブロックを見つめたままです。

次の瞬間、すぐるくんはブロックをつかんで積みあげようとしてしました。

さやか：「わたしのよ！」

さやかちゃんがすぐるくんのブロックを取りあげたので、すぐるくんは泣き出してしまいました。

スタッフ：「すぐるくんも一緒に遊びたいみたいだよ。」

さやかちゃん、一緒に遊んでいいかな？」

さやか：「いいよ。」

スタッフ：「さやかちゃん、さすがだね！」

機嫌の直ったすぐるくんは、さやかちゃんと二人で、どんどん高くブロックを積みあげていきました。



そこへ、5歳のゆうきくんが、母親のちずるさんと二人でやってきました。

ブロックを見たゆうきくんが「僕もブロックで遊びたい！一緒に遊んでいい？」とさやかちゃんに聞きました。

ちずる：「二人で遊んでいるのにごめんね。」

さやかちゃんは少し考えて「いいよ。」と答えました。



そうしてどんどん上に積みあがったブロックは、バランスを崩して、バラバラと倒れてしまいました。

さやか：「あああ、壊れちゃった！せっかく積んだのに！」

ちずる：「ゆうきが大きいのをどんどん上に積みあげるからでしょ！ごめんなさいは？」

ゆうき：「ごめんなさい。」

さやか：「いいよ。」

スタッフ：「ゆうきくん、謝れたね。エライ！さやかちゃんもエライね。さっきより大きいのを作ったら？」

さやかちゃんたちは、気を取り直してもう一度、一緒にブロックを積みあげ始めました。



はるおさんのひとりごと



家と違って、こういう場所では聞きわけが良いなあ。
家では、なかなか言う事を聞かないのに。
スタッフさんの声かけも助かるし……。
こんなふうに、いろんな子たちと遊んだりするの
って、大事なのかな。

グループワーク

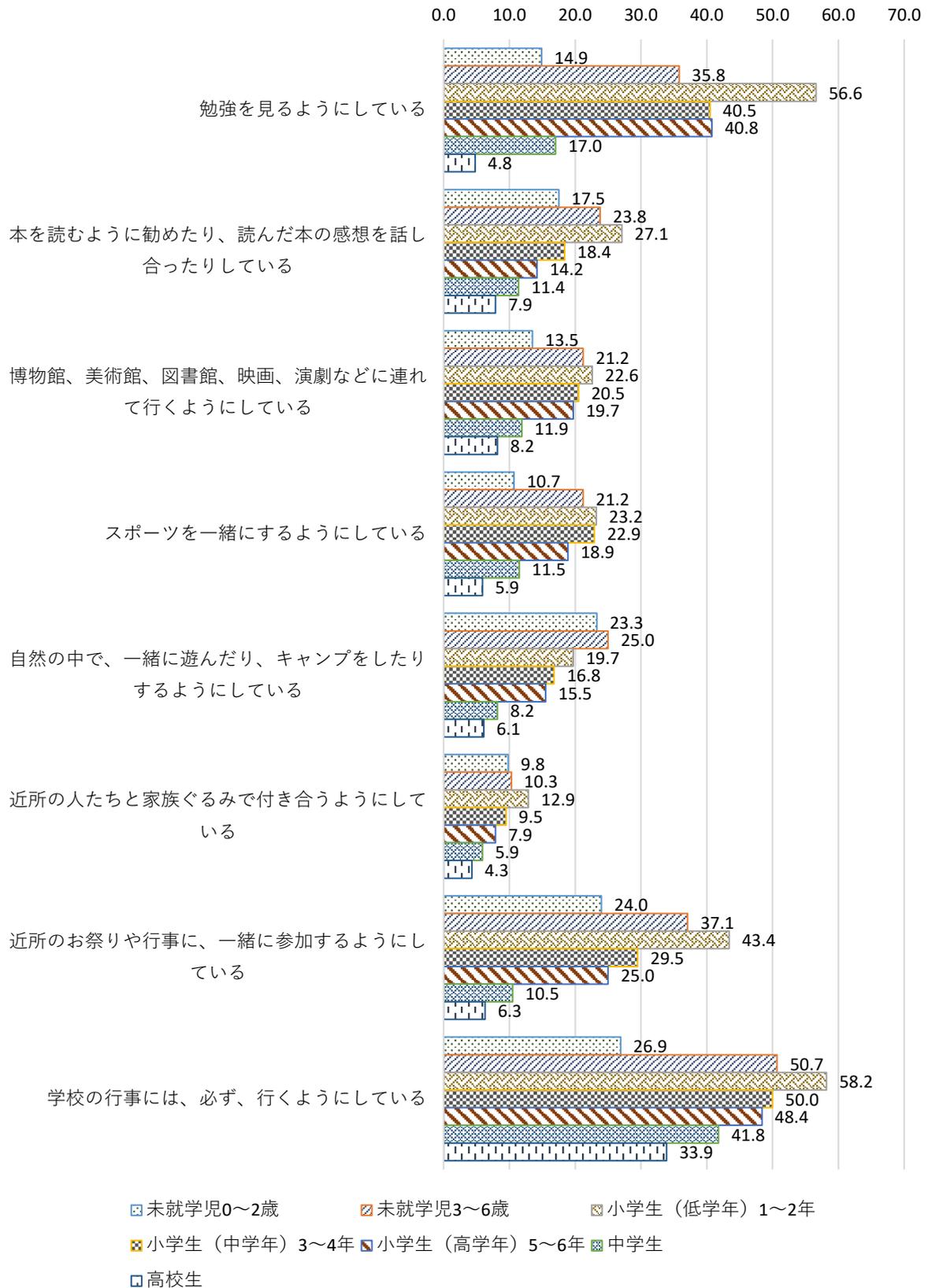
- ① エピソードを読んで、どのように感じましたか？
- ② さやかちゃんやすぐるくんの気持ちを考えましょう。
- ③ ちずるさんやスタッフの声かけについて、どう思いますか？
- ④ 子どもの「かかわる力」を育てるには、何が大切でしょう？

■参考資料

＜子どもの教育について家庭で心がけていること（末子年齢別）※複数回答有＞

（18歳以下の子どもを有する保護者への調査結果）

（%）

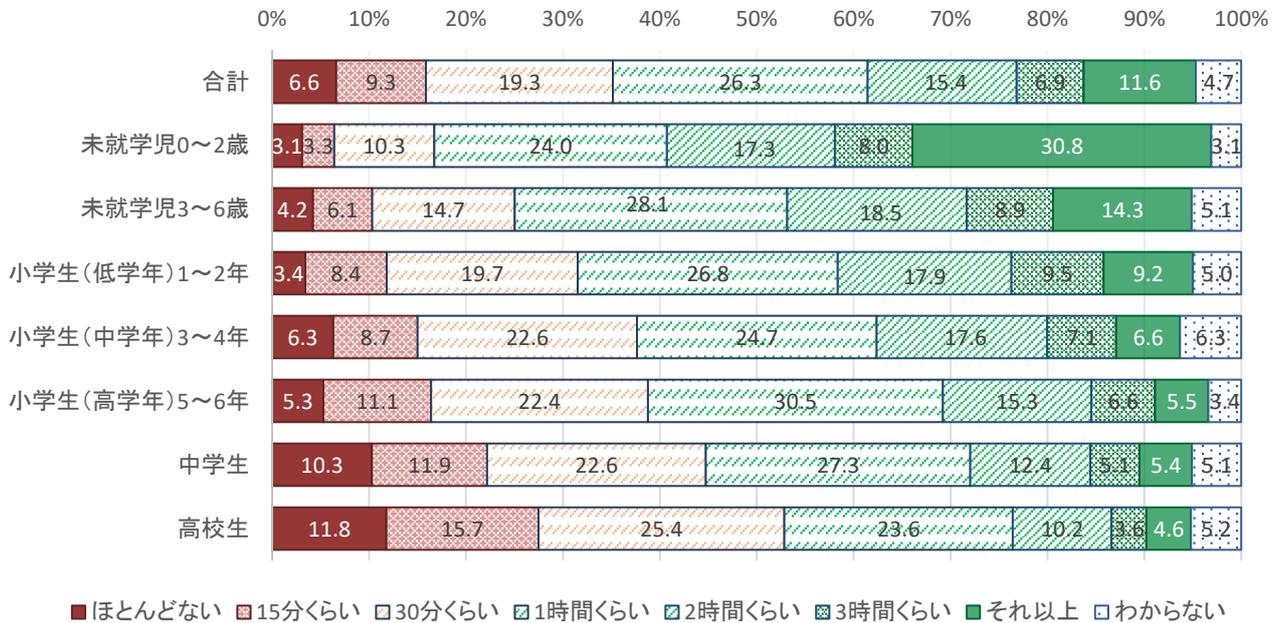


資料：文部科学省「家庭教育の総合的推進に関する調査研究—子供の生活習慣と大人の生活習慣等との関係に関する調査研究—」（平成31年3月）から一部抜粋

■参考資料

<平日に子どもとコミュニケーションをとる時間（末子年齢別）>

（18歳以下の子どもを有する保護者への調査結果）



資料：文部科学省「家庭教育の総合的推進に関する調査研究—子供の生活習慣と大人の生活習慣等との関係に関する調査研究—」（平成31年3月）

●子どもとの関わり方の例

思いを伝え合う

気持ちを表す対話によって、人の気持ちを感じる力や共感が育まれます。

気持ち（感情）を表す会話をよく行うことが、感情の理解につながります。



資料：大阪府教育委員会「乳幼児期に育みたい！ 未来へ向かう力」（令和2年3月）